

1. 調査報告概要表

作成日 平成 22年 4月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	1070301230
法人名	有限会社 ポピー
事業所名	グループホーム ポピーの家
所在地	群馬県桐生市仲町1丁目6番15号 (電話) 0277-47-5233

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年2月24日

【情報提供票より】(22年 2月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	4 人
常勤換算	7.5

(2) 建物概要

建物構造	1部鉄筋木造 造り
	2階建ての 階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	日用品費他 10,500円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月9日現在)

	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.8歳	最低 80歳	最高 101歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 芙蓉会 まる医院 ・ 大塚歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住み慣れた地域で、家族や親子のきずなを大切に、家族の協力とともに利用者の生活を支援したいと考えているホームである。町内会の活動を通し、地域活動の参加も定着しており、保育園との交流や、近隣住民との日常的な触れ合いも自然に行われている。利用者が安定して生活できるよう家族の様々な思いも丁寧に受け止めたうえで、本人と家族が自宅で生活しているような時間が持てるよう細かな配慮もしている。ホームの運営に関しても、現状や家族の意向を踏まえながら、様々な資料をもとに職員会議・運営推進会議で検討を重ねながら状況に応じて見直していくという積極的な姿勢で取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の結果については、職員会議で取り上げ改善できることを検討して実施した。裏庭の有効活用を増やし、食事や日光浴の機会を増やしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各職員がそれぞれ自己評価するまでには至っておらず、職員会議で話し合った結果を管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2カ月に1度開催されている運営推進会議では、行政職員・地域の代表者・複数の家族も出席し、ホームの現状や課題について具体的に議論している。相互の理解を深めながら、論議されたことを運営に活かしている。会議の結果は参加できなかった家族や来訪者にも見てもらえるよう玄関を入った正面のホワイトボードに掲示している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者が安心して生活するためには家族の支えは重要と考え、家族の協力が得られるよう家族の意見や思いを十分に受け止めることを前提とした方針で取り組んでいる。家族とはその都度話し合いや相談を納得がいくまで行い、実際の運営やサービス提供に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>『地域と一緒に行動を・・・』という理念を掲げ、町内会の活動や保育園との交流、近隣住民との付き合いも定着して行われている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が安心して地域の中でその人らしく生活してもらえるよう職員で話し合い、現在の理念である『地域と一緒に行動を・・・』を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の大切さを、毎月の会議の中で確認しあっている。また、理念を常に身近に感じながら日々の業務に取り組めるよう、職員は理念を書いた小型の用紙を常に携帯している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理念の実践として、日頃から近所の付き合いを大切にしており、あいさつや野菜を気軽にいただくなど親しい関係を築いている。町内会に加入しており、定例の会議や青年の家で催される花見や運動会・絵手紙作りにも参加している。保育園との交流も継続されており、地域に親しんだ活動が根付いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は会議で報告し、さらに検討できることを話し合った。自己評価は、会議で話しあったうえで、管理者がまとめた。	○	自己評価は会議で話あったうえでまとめられているが、職員それぞれが自己評価に取り組むことで、業務の見直しや自己研鑽も期待できるため、さらに一歩進んだ取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度定例で開催している。参加者はホームの現状や課題に対してざっくばらんな討議を行い、お互いに理解し合うよう進めている。会議録は、玄関に掲載し、参加できなかった家族や来訪者にも気軽にみてもらえるように声かけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外でも必要に応じて連携しており、実例をもとに質問や相談ができる関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族とのつながりを重視することを方向性の1つとし、その都度細かな相談や報告を行っている。家族の協力や理解を深めてもらうために、日頃の表情を実際に確認してもらえ場面作りや会議報告・講習会などの資料も玄関に掲示し読んでもらうよう工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも複数の家族が参加しており、意見を出してもらっている。面会時にも働き掛けている。だされた意見は運営に生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員には順序を追って引き継ぎを行い、混乱しないよう利用者や家族にはその都度紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は、ハローワークが行う初任者研修に参加してもらっている。実務に関しては体験から学ぶことも大事であり、職員同士の良い面を教えたり学び合ってもらっている。外部研修も交代で参加し、参加者が報告するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東毛地区の同業者との交流や講演会・交換研修に参加している。今年度は職員の意見で交換研修は参加しなかったが、今後はより意味のある交換研修になるよう提案したうえで参加していきたいと思っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、家族とともに見学してもらったり、職員が事前に訪問を行い納得してもらったうえで利用開始にしている。入居当初の不安に対しては、家族から離れるさみしさを埋めてもらうため、家族の面会を増やしてもらうなど一緒に取り組む努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を通し、食事の支度や後片付け、楽しみごとなど職員も一緒に行う中で、お互いに刺激し合ったり発見しあったりしながら関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人なりのペースで生活する中で、希望や思いを受け止めるようにしている。家族からの情報も参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの担当者からの意見や家族の意見を踏まえたうえで、会議で検討し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1カ月ごとにモニタリングを行い、必要に応じて見直しをしている。変更がない場合は6カ月ごとに見直しをしている。	○	介護計画は、変更がない場合でも3カ月ごとに見直しの作業を行い、家族に確認してもらって欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の精神的安定を重視し、家族の協力を基本にしたサービスの提供を心掛けている。家族や本人の希望に応じて、美容院の利用や受診の同行・歌謡ショーや行事に参加できる支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望する主治医に受診してもらっている。協力医は月に2回往診しており、24時間対応してくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針として、本人・家族の現状や思いを受け止めながら、様々な資料も参考に会議や運営推進会議でも検討し、平成21年の夏に『看取り介護の実施の定義』を作成した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	『秘守義務』を玄関に掲げ、プライバシー確保の徹底と重視した取り組みをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースで生活できるよう支援しており、日中の楽しみごとや就寝時間も自由になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食には希望のメニューを取り入れ、下ごしらえ等利用者は出来ることを職員と一緒にやっている。食前には利用者が毎日交替で和やかな挨拶を行い、楽しい雰囲気の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週に3回は入浴してもらえるよう支援している。時間も希望に応じており、安眠につながる足浴は気軽に取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり食事に関する役割をみんなで協力的に行っている。習字や折り紙・絵手紙やカラオケ・俳句作りなど、それぞれの楽しみを持っており、利用者の生活に組み込めるよう職員は支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事や散歩、裏庭での食事や日光浴、ドライブにも出かけている。家族もボランティアで協力してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は2階、食事や入浴は1階になっているが、玄関をはじめ日中は鍵はかかっておらず、自由に出入りができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導のもとで避難・消火訓練を実施している。回覧板を利用して、地域にも理解と協力を呼び掛けており、訓練の様子が新聞でも取り上げられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日チェックし、必要量が確保できているか確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を囲んだ共同スペースには、行事の写真や楽しみで作る様々な作品が飾られ、季節の花も添えられており、落ち着いて過ごせる環境ができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が頻繁に来訪して、その都度必要なものを持ってきている様子が見られる。自宅のように飲み物やハンドクリームなどが身近におかれ、家族と利用者が使い勝手がよい部屋づくりをしている。		